令和３年度　学校経営計画・学校評価シート

高知県立高知若草特別支援学校子鹿園分校

《高知県の教育の基本理念》	（1）学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち （2）郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	学校像	〇児童生徒が自己実現を達成できる学校 〇保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校 〇地域になくてはならない存在として愛される学校 〇教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校	目指すべき姿の実現に向けた取組の概要	（1）学校教育目標、教育課程、日々の授業のつながりを意識したカリキュラムマネジメントサイクルの確立による児童生徒一人一人の実態に応じた教育課程の編成 （2）卒業後の自立と社会参加を見据えた教育の充実と豊かな心の育成 （3）教員の専門性の向上と指導力の育成 （4）児童生徒の命と人権を守る安心安全な学校づくりの推進 （5）特別支援教育のセンターとしての支援機能や情報発信、保護者・関係機関等との連携による開かれた学校づくりの推進 （6）学校教育目標の達成をめざし、やりがい、働きがいのある学校組織の運営と働き方改革の促進
《取組の方向性》	〈第3期高知県教育振興基本計画　基本方針と横断的取組〉 ①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ③地域との連携・協働 〇学校における働き方改革の推進		児童生徒像	〈知〉自ら学ぶ 〇学ぶ楽しさを感じ、自ら進んで学習する意欲や態度を身につけた児童生徒 〇社会生活に必要な知識や技能、態度を身に着けた児童生徒 〈徳〉意欲・協調・協力 〇人や環境と積極的に関わり、自立し社会参加しようとする意欲を持った児童生徒 〇お互いを認め合い、思いやりの気持ちで協調・協力しようとする児童生徒 〈体〉健康・体力 〇卒業後も一人一人の持てる力を発揮し、将来にわたって豊かに生きるため、健康や体力、基本的生活習慣を身に着けた児童生徒		

《重点取組項目》

（評価　A:目標を十分に達成　B:ほぼ目標を達成　C:やや不十分　D:改善を要する）

項目		取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】		学校関係者評価		見直しのポイント【A】
専門性の向上	教育課程の改善	主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善とその評価を教育課程の改善につなげ、よりよい教育課程を編成する。【R2～4】 ①個別の指導計画及び学習評価の充実（実態把握、3つの柱での目標設定、3観点での評価） ②個別の指導計画をふまえた児童生徒の実態に応じた年間指導計画や単元計画表の作成を進め、教育課程の振り返りにつなげる。 ③授業づくりのPDCAサイクルを徹底し、主対深の視点での授業改善を進める。 ④卒業後を見据えたキャリア教育の充実	(現状・課題) ・個別の指導計画の作成や単元計画表の作成を通して、3観点での目標設定、学習評価への理解が進みつつある。 ・学習指導要領1段階を目指す児童生徒の3観点での目標設定、学習評価について難しさを感じており課題がある。 ・日々の授業改善から個別の指導計画や年間指導計画の見直し、さらに、教育課程の改善につなげていくという視点の理解がまだ不十分である。 ・グループ研究や学校評価アンケートを通して、卒業後を見据えた支援・指導や取組の共有や必要性が課題として挙げられている。 (目標) ＊【教育課程の改善につなげる視点での授業づくりと学習評価：プラス評価80%以上】84.5% ①②日々の学習指導の充実を通じて、個別の指導計画の改善を図る。（実態に基づいた指導と学習評価を単元を通じて見通せるように単元・評価計画を作成・活用する） 【公開授業での単元・評価計画表作成100%】100% ②③単元・評価計画表に基づいた公開授業と研究協議を全教員が実施する。 ③Ⅱ類型：引き続き学習指導要領を読み、「目標内容詳細表」を作成し実践事例を蓄積する 【Ⅱ類型目標内容詳細表（小）に加えて（中）の作成に取り掛かる】 ④肢体不自由のある子どものキャリア発達につながる指導について教育課程上の位置づけを明らかにする。 【小中高を見通した進路学習計画の作成】	① 実態把握から、目標設定、学習評価までのPDCAサイクルの推進【教務】 ・目標設定と3観点による評価について具体的な書き方をについて説明する ・校務支援システムの活用 ①②教育課程改善に向けての取組【教務】 ・教育課程改善のための振り返りを年間で意識し、シートにより確認する ・単元・評価計画表を全員が作成・活用する ②③「こどもの目指す子ども」の姿を目指し、ポイントを絞った授業づくり・授業改善を行う 【研究】 ・実態把握の方法、目標設定や授業づくりに関する研修やデータベースづくり ・公開授業の実施及び振り返りの方法の検討と実践 ①② 4校カリマネ委員会、教育課程研究集会 ④社会性の育成の学習の実践と改善、小中高を見通した進路学習計画の作成研究・進路【	C	①個別の指導計画の年間スケジュールを明示し、スケジュールに沿って作成を進め、夏季休暇中に評価改善を行った。 〇目標設定は、学習指導要領に基づき設定できるようになりつつある。 ■3観点評価については、評価に偏りが見られる等、見方にはまだ混乱が見られる。 ②夏季休業中に年間指導計画の修正を行った。 ■個別の指導計画の目標との整合性に欠けていたり、単元、指導内容の書き方が統一されておらず、学級ごと、学部ごとに違っている。 ②夏季休業中に、全員が単元計画の作成に取り掛かった。 〇教育課程研修までに作成を始めることができている。 ②1学期末に教育課程振り返りシートを記入し、教務部がまとめている。 ③■7月～全教員が公開授業に取り掛かっている。研究部でまとめのシートを作成しているが、研究協議のポイントの周知が不十分。 ④キャリア教育の充実に向けて、進路学習計画、社会性育成の授業実践、キャリア発達段階表の検討、見直しをグループ研の時間に行っているが、取り組みの目標や内容について周知不足である。	B	①②2学期中に全教員が単元・評価計画表を作成して公開授業を実施し、活用や研究協議を通じて単元を見通した指導や3観点での学習評価につなげていく。 ①②③管理職が個別の指導計画や単元・評価計画表の確認や修正を行ったり、授業研究協議に参加したりすることで、3観点での目標設定や評価、授業改善についての助言を積極的に行う。 ②年間指導計画について、記入する内容を整理して記入例を作成し、記入内容の統一を図る（Ⅱ類型・教務） ②1学期の教育課程振り返りシートから、課題や改善点を明らかにし、2学期の授業内容や計画、評価の共有方法等の改善に活かす。 ③公開授業の研究協議の流れが統一できるよう、流れのシナリオを作成し共有して取り組む。（研究部） ④「こどもキャリアプラン（仮称）」の図式化を行い、取組の方向性の確認を再度行い、研究を進める。（研究部・進路部）	①個別の指導計画及び学習評価の充実 〇個別の指導計画の年間スケジュールの提示により、年間を見通した作成や評価改善につながった。 〇個別の指導計画の運用を通して3つの資質能力を念頭に置いた目標設定、3観点評価が定着してきている。 ②単元・評価計画表の作成を進め、教育課程改善につなげる 〇全教員が単元・評価計画表を作成し、公開授業を行った。授業づくりを通して、単元でつけたい力を明確にし、ねらいや評価方法、時期を意識した授業が増えてきた。 〇目標内容詳細表（Ⅱ）の作成を通して、学指の内容理解が深まり、学指に基づいた計画や指導が浸透してきた。 ■個別の指導計画を踏まえ、指導内容を十分に検討した年間指導計画の作成には至っていない。これまでの活動や単元ありきの計画となっている場合がある。（Ⅱ類型） ■教科横断的な指導の検討と実践(Ⅲ類型) ■学習評価を教育課程の改善につなげる視点が不十分 ③主対深の視点での授業改善 〇全教員が公開授業と研究協議を実施した。まとめシートを使って、学習評価や主・対・深の視点での振り返りを意識した協議を実施し、一人一人が改善点を明確にして次時間の授業につなげることができた。 ■単元・評価計画の作成、活用と学習評価の充実 ④キャリア教育の充実 〇キャリア発達段階表の見直し、進路学習計画の素案作成、社会性育成の授業実践について、教育課程上の位置づけについて検討し、共通理解を図った。 ■本年度の内容をまとめ、実践につなげる取組を継続。 ■キャリア・パスポートによるキャリア教育に関わる活動の児童生徒自身による蓄積。	B	B＋	・個々の授業を考えてPDCAを回すのはいい。授業について、教員が色々な授業をしているが、個々の児童生徒の特性に合った授業を作ったら蓄積・残していき、子どもに合わせて活用していくと、いい授業・教材ができるのではないか。 ・授業をどうするかだけでなく、生徒のiPadの活用等、卒後の生活で楽しい時間を過ごせることは重要。障害の程度によるが、重度の方は何が楽しいかを見付けられるかが大事。児童生徒がどう楽しめるか、いい時間が持てるよう授業の中でも発見していってほしい。学校卒業後はマンツーで対応できないから一人一人の楽しみ方を見付けてもらいたい。 ・指導計画作成の際に、保護者の意向は反映されるものになっているかどうかも大切。 【教職員】 教育課程の改善 ■教育課程につなげる視点 ①6.1②78.8③12.1④0⑤3.0 ■単元・評価計画／授業改善 ①15.2②66.7③15.2④0⑤	主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善とその評価を教育課程の改善につなげ、よりよい教育課程を編成する。【R2～R4】 ①学習評価への理解を深め、学習評価を教育課程の評価・改善につなげる ②授業づくりのPDCAサイクルを徹底し、主対深の視点での授業改善を図る。（継続） ③若草3校で教育課程上の課題を共有し改善のための検討を行う ④卒業後を見据えたキャリア教育の充実を図る。
専門性の向上	自立活動の指導の充実	教科学習を後ろ支えする自立活動の指導内容の充実。 【R2～3】 ①一人一人の児童生徒の「流れ図」の作成または見直し ②自立活動の指導と教科の指導の関連を理解し、適切な指導場面を設定する。 ③療育福祉センターとの連携を深め、指導内容の充実を図る、	(現状・課題) ・「自立活動とは」「肢体不自由学校における自立活動とは」等の基礎的・基本的内容の理解が十分でない。 ・自立活動の目標は設定したが、日々の取組に結びついていない面がある。 ・自立活動の指導と教科指導とのつながりの理解が不十分。設定した目標や内容が、教科の指導において十分生かせていない。 ・担任によって、関係機関との連携の内容や程度にばらつきがある。 (目標) ＊【自立活動の指導目標、内容を明らかにした指導支援：プラス評価90%以上】90.9% ①②自立活動の基礎的・基本的な内容の理解と教科指導との関連の理解を深め、実践する。 【公開授業案の自立活動の配慮事項の記入率100%】63.6% ①①自立活動の流れ図について、わかりやすい改善スケジュールと評価と見直しを行う(8月　) 【自立活動の流れ図作成スケジュールの明確化】 ③療育福祉センターとの担当者会を実施し、相談、連携を通して指導の充実を図る。 ＊【連携を生かした指導プラス評価90%以上】86.7%	①肢体不自由・自立活動に関する基本的な研修をシリーズで実施する 【研究】 ①効率的で効果的な自立活動の評価と次サイクルの指導計画の作成方法とスケジュールの明示 【研究】 ②担当者会、外部専門家活用事業の効果的な活用の検討及び実施 【教務、コーディネーター】 ③療育福祉センターリハビリ・病棟との担当者会を実施し、情報共有や指導、助言を具体的な指導に活かす。【教務】	C	①自立活動流れ図「実態把握」の方法について修正を行い、研究部が提案、説明し、夏季休業中に各学級、グループ目標設定を行った。 〇流れ図作成のスケジュール、個別の指導計画への記載方法などは年度初めに周知されている。 ■自立活動の「時間の指導」「配慮事項」のとらえ方が不十分で、時間の指導の内容が十分実施できていない現状がある。 ■児童生徒の自立活動を担当する教員が複数の場合の担当者間での目標や指導内容の共有に課題がある。 ②担当者会、外部専門家活用事業の一部は実施できたが、感染症のステージにより、研修や事業の実施が延期になっている。 ③担当者会実施後、課題を共有したり、学校の実際の活動場面で指導を受け、アドバイスをもらう等の連携ができている。	B	①②肢体不自由・自立活動に関する研修について内容と方法を再検討し、計画して実施する。 ①自立活動を担当する教員が複数の場合、目標や指導内容が統一、共有できる方法を各学部で検討、確実に実施する。 ①自立活動の時間の指導と配慮事項との関係について、各校の整理の状況と周知についての情報を3校カリマネ委員会で収集し、校内に周知を図っていく。	①流れ図の作成 〇流れ図の課題抽出方法の見直しが課題を絞ることにつながり、児童生徒の目標が焦点化されつつある。 ■流れ図作成スケジュールが明確でなく混乱があった。研究と教務が連携し、作成後のスケジュールを明確にする。 ②自立活動の指導と教科の指導との関連 〇流れ図において自立活動の時間の指導の指導内容を明確に示すことができつつある。 ■「時間の指導」と教科における「配慮事項」のとらえ方が不十分。 ■自立活動担当教員が複数の場合、指導目標や内容の共有に課題がある。 ■教員が、指導内容についてその内容が適切かどうかに不安を感じている。 ③療育福祉センターとの連携 〇担当者会の実施、病棟ケース会への参加、センターPTによる研修会の実施により、指導やアドバイスを校内で共有し日々の指導に活かすことができた。 ■卒業後や退所後を見据えた指導について共通理解を図りながら取組を進める。	B	B＋	・子供のことについて先生とよく話しており、1年間の成長を感じている。 ・先生が、かかわってくれてできることが増えた、小さいことも一つ一つ増えている。 ・特に何も言うことはないくらいです。満足している。 （保護者委員さん意見） 【教職員】 自立活動の指導の充実 ■実態に即した指導支援 ①21.2②69.7③6.1④0⑤3.0 ■教科指導との関連 ①12.1②51.5③30.3④0⑤6.1	教科学習を後ろ支えする自立活動の充実を図り、教育課程の改善に活かす。 ①流れ図の作成と見直しをとおして自立活動の指導の充実を図る ②肢体不自由教育に関する専門性の向上 ③療育福祉センターとの連携を深め、指導内容の充実を図る 【教職員】 療育福祉センターとの連携 ■連携を活かした指導 ①30.3②57.6③6.1④0
専門性の向上	ＩＣＴ活用の推進	①GIGAスクール構想による一人一台PCの配置に伴い、すべての教員がGoogle協働学習ツールGoogle Workspaceを利用できるようにする。（教員の基礎的な知識・技能の習得） ②児童生徒の学習指導や支援にICT活用ができる体制を作る。	(現状・課題) ・ICT機器の活用に関して、スキルに個人差があり、基本的な研修を進めていく必要がある。 ・ICTの使い方や個人情報の管理に関してのルール作りや周知が必要 ・トラブルやメンテナンスへの対応等、一部の教員に負担がかかることが心配される。 ・機器活用の実践事例を知り、効果的活用を進める。 (目標) ＊【支援ツールの基本的使い方の理解：プラス評価100%】69.7% ①教員がGoogle Workspaceの基本的使い方を理解する。 ②一人一人の障害の特性に応じた学習におけるICT活用の実践例を蓄積する。 ＊【児童生徒のICT活用週3回以上:80%以上】 ①② ICT活用のためのマニュアル及び管理ルールに基づいて活用できるようにする（教員・使用できる児童生徒）　【マニュアル・管理ルールの作成】	①②　校内でICTの活用促進のための係を明らかにし、研修等を計画的に行う。【研究、情報・ICT】 ①　遠隔授業の実施や校内外とオンラインを活用した行事等の在り方の提案・実施 【研究ICT・教務・児生】 ①②　教職員の活用マニュアル、児童生徒が自分で使えるための指導の手引き等の作成。【情報・ICT】	B	①本年度新しく位置づけた「情報・ICT推進係」を中心に取組を進めている。Google Workspace活用のための教員向けの研修を9月までに4回行った。演習を基本に、学部ごとに短時間で回数を重ねることや、日常的に会議等で活用することで、理解が進みつつある。 ②児童生徒の活用に向けて、「こどもchromebook教室」を計画している。 ■学部によって学習の中での取組に差がある。 ■障害の重い児童生徒に対する活用が進んでいない。 〇新型コロナウイルス感染症の感染者状況により登校を控える判断となった場合にも、classroomを活用した遠隔授業を実施した。	B	①引き続き、計画的に教員の活用力向上のための研修会を計画実施する。 ②ICT機器の活用は、学校の喫緊の課題であるということを意識し、一人一台PCを積極的に授業の中での活用を進めていく。 ②子どもの障害の状態によって、どのような活用ができるのか、情報収集を行い、使い方の検討、開発をしていく必要がある。	①新しい教育ツールの理解 〇情報・ICT推進係を新設し、係が中心になって新しい教育ツール関しての研修を年間10回行った。研修内容や方法を工夫することにより、全教員の基本的操作方法、活用方法についての理解が進んだ。 ■教員によって活用状況に差がある。 ■障害の重い児童生徒に対する活用方法で悩んでいる。 ②学習指導へのICT機器が活用できる体制を作る 〇一人一台端末の活用のための手続きやマニュアルは計画的に整えることができた。また、活用を確実に進めるために「こどもchrome教室」を計画し、児童生徒が意欲的に取り組めている。 ■学級によって活用状況に差がある。 ■効果的な活用方法が分からない	B	B	・教員が使えないのは問題があるのかもしれないが、個々によって難しさが違う分野だと思うので仕方がない部分があるのではないかと思う。それゆえに目標に届かなかったということだと思うので、マイナス評価にしなくてもよいのではないか。 ・わかりにくい部分だが、使わなくてはならないときにバックアップのサポートICT支援員等の体制がとれていること等も大事、必ずしも一律にはならない。若草は人材活用によるバックアップができている。 ・若草は10年来進んでいる方である。	児童生徒の目標達成の手立てとしてのICT機器の利活用の推進 ①授業の目標達成の手立てとして、ICT機器の活用を推進する。 【教職員】 ＩＣＴ活用の推進 ■クロームブックの基本的操作 ①30.3②39.4③21.2④9.1⑤0 ■授業でのＩＣＴ機器の活用 ①33.3②51.5③12.1④0⑤3

働き方改革	子どもに向き合う時間、自分自身を高める時間の確保と、一人一人の力が生かせる職場づくりを行う。 ①効果的、効率的で計画的な業務により、見通しを持った仕事の仕方につなげるなど教職員の働き方に関する意識改革を行う。 ②本校・分校で共同・協働してできる業務を検討し、各校の教育活動の交流による質の向上を図るとともに、業務の効率化を図る。	(現状・課題) ・授業における支援体制の見直しや学習支援員を増員、活用により、空き時間を確保したが、実質は教材研究の時間が増えていないというマイナス評価が多い。 ・全体の会議は見直しを行っているが、会議の精選や時間、進め方の改善は不十分で課題がある。 ・本校分校で、各種様式、取組等について協働、共有したことで、様式の整備、小・中新学習指導要領全面実施に向けた取組を確実に進めることができた。さらに協働・共有できることがないか検討していく。 (目標　＊【教材研究の時間が増えた:プラス評価70%以上】 72.4% ①効果的、効率的業務のためにチーム支援を行う組織体制づくりと業務分担の見直しを図る。 ①個々の業務改革の目標を明らかにして、できることから業務の改善を進める。(時間の使い方・教材研究・分掌・書類・会議等) ②若草グループで協働・共同した教育活動、事務的な処理を検討する。	①データベースなどにより教材の共有と活用、デジタル教材の活用 【教務・研究・情報ICT】 ①授業の指導者の人数について検討。(マイナスで行える授業の検証、学習支援員の活用) ①分掌業務やクラス運営について進捗管理シートで確認しながら取り組む仕組みをつくる。 ①会議は17時までに終了を徹底する ①休校などの連絡方法の確立(電話連絡を減らす＝マチコミ等) ②カリマネ委等を活用し、教材や書類など知的財産の共有を図る	C	①○小学部、中・高等部とも、授業における教員数の検討、学習支援員の積極的活用等により、空き時間を確実に確保するという意識が全体に浸透してきている。 ①■効果的な会議の進め方や時間内終了の徹底についての意見が、1学期の反省に出されている。 ①■19時までの退勤については、毎日5名程度19時にはまだ在校している状況であるが、19時15分までには、退勤が完了している。 ○月末の18時10分退勤は実施できている。 ②4校文芸ス委員会は、2学期始業までに委員会を持ち、2学期の「若草展覧会」「リモートボッチャ大会」について日程、内容が決定した。 ②3校カリマネ委員会を実施し、各校の取り組み内容や課題の共有、教育課程研究集会の実施について協議、検討した。	①学部、分掌部に関して、引き続き主事、部長を中心に進捗管理を行い、運営を進めていく。管理職が各分掌部の進捗管理表の確認を行い部長への助言を行う。 ①引き続き、クラス主任を中心にした学級経営を行い、クラス教員全員で協働できる体制づくりを進める。 ①9月の運営委員会において「効果的な会議への取組」についてのワークショップを行い、できることを即実行する。 ②高等部入学選考検査に関して本校と実施の流れ等をそろえ、協働して取り組む。	A	①効率的、効果的、計画的な業務の遂行 ○授業における教員数の検討や支援員の活用、空き時間での教材研究の徹底の推進により、空き時間の確保等、効率的効果的な働き方に対する教員の意識が高まった。 ○19時最終退勤、月1回18時退勤、会議の精選と時間設定、職朝の見直し等の取組がスタンダードになってきた。 ○学部主事、分掌部長、クラス主任を中心にした学部や分掌、クラスの運営の体制が進み、一人一人の役割分担が意識されてきた。 ②3校連携 ○3校カリマネ委員会に向けて、校内でもミニカリマネ委員会(教頭、主幹、研究部長、教務部長)を開き、各取組を確認することで、共通理解を図りながら進めることができた。 ○高等部入学選考に関して協働して取り組むことにより、業務の負担軽減につながった。	B＋	・具体的な学校の取組の説明もあったように教材研究の時間の確保の評価も上がってきている。小さなことの積み重ねが大切。工夫をしながら地道に取り組むしかないが、少しずつその成果がでてきている。 ・教職員の意見を聞き取ることは いいと思う。コロナ禍でICTを使うことが学校運営に反映された。 ・教職員の自己評価が80%(3校平均)に届いたということに驚いている。それだけ学校の努力があったのだと思う。 【教職員】 働き方改革 ■教材研究の時間増 ①42.0②30.0③12.0④3.0	子どもに向き合う時間、自分自身を高める時間の確保と一人一人の力が生かせる職場づくりを行う ①教職員一人一人がワークライフバランスを意識した働き方の実践。 ②効果的、効率的業務のためにチーム支援を行う組織体制づくりと業務分担の推進。 ③本校・分校による共同・協働業務を検討し、各校の教育活動の交流による質の向上と業務の効率化を図る。